HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アカデミアにおける「ハゲタカ問題」について
Author(s)	村木, 麻衣子; 北海道大学附属図書館研究支援課研究支援企画担当
Description	北海道大学メディア・コミュニケーション研究院 FD研修 2024年12月12日（木）資料
Issue Date	2024-12-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/93751
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	lecture
File Information	20241212_predatory_problem_jpn.pdf, Japanese version PDF

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

アカデミアにおける「ハゲタカ問題」について

北海道大学メディア・コミュニケーション研究院　FD研修

2024年12月12日（木）

北海道大学附属図書館 研究支援課・研究支援企画担当

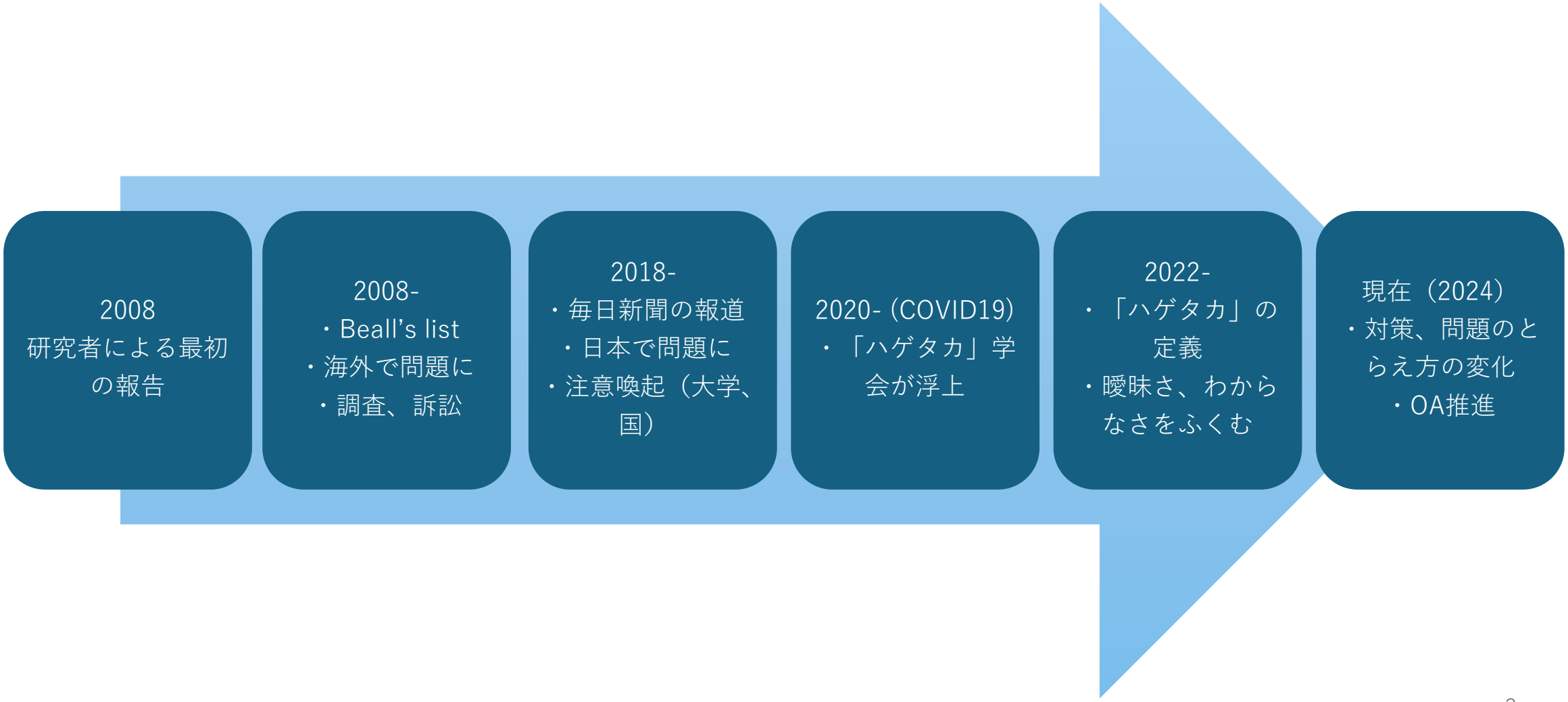
村木麻衣子

CC BY

目次

- 「ハゲタカ問題」とは？　… p. 4
- 遭遇事例　… p. 10
- 何が問題なのか？　… p. 16
- 対策：対応？予防？　… p. 19
- 「ハゲタカ問題」の示すほんとうの問題　… p. 32

「ハゲタカ問題」とは?
発見から現在まで



「ハゲタカ問題」とは?
いわゆる「ハゲタカ」

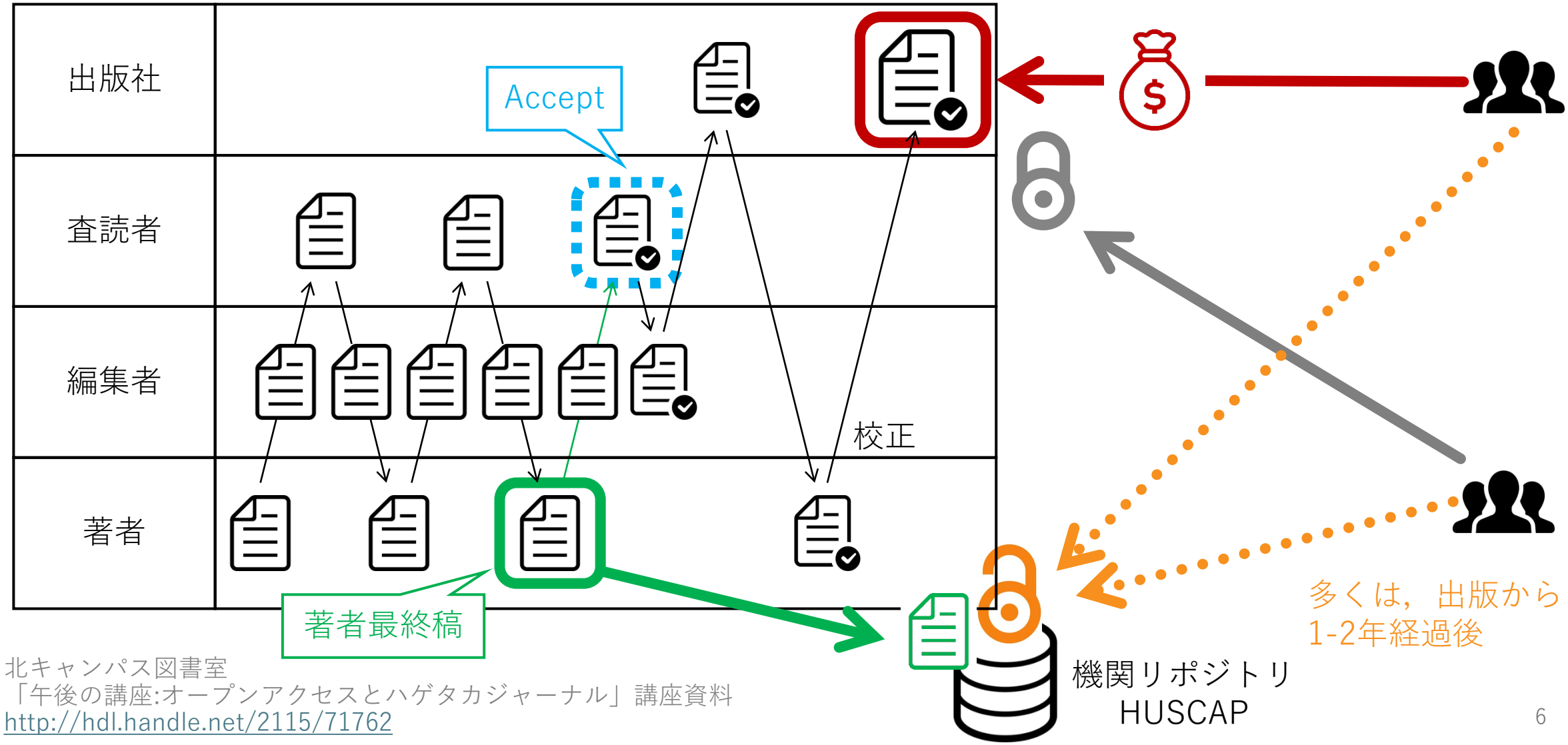
- 「ハゲタカ 」は”predatory”の日本語訳
- すべて通称
  「ハゲタカ」ジャーナル/学会/出版社、“predatory” journal/conference/publisher、粗悪学術誌、悪徳雑誌、怪しいジャーナル、「ハイジャック」ジャーナル/学会/出版社 etc.
- 典型的とされる特徴
  執拗な勧誘メール、粗雑なサイト、極端に早い・不適切な査読/審査、インパクトファクターに似た数値、有名誌に似たロゴや名称
- 目的は論文掲載料/参加料

「ハゲタカ問題」とは？
オープンアクセスとは

- 研究成果である論文をだれでも自由に利活用できるように
- 論文は無料で公開される
- オレンジ色の鍵が開いたアイコン
- ジャーナル購読料の高騰にともなって登場
- 増加・しだいに一般的に
- 日本においても、国際的にも推進 ※
- 出版にかかる費用の負担などでいくつかの方法がある
  セルフアーカイブ（Green OA）
  Gold OA

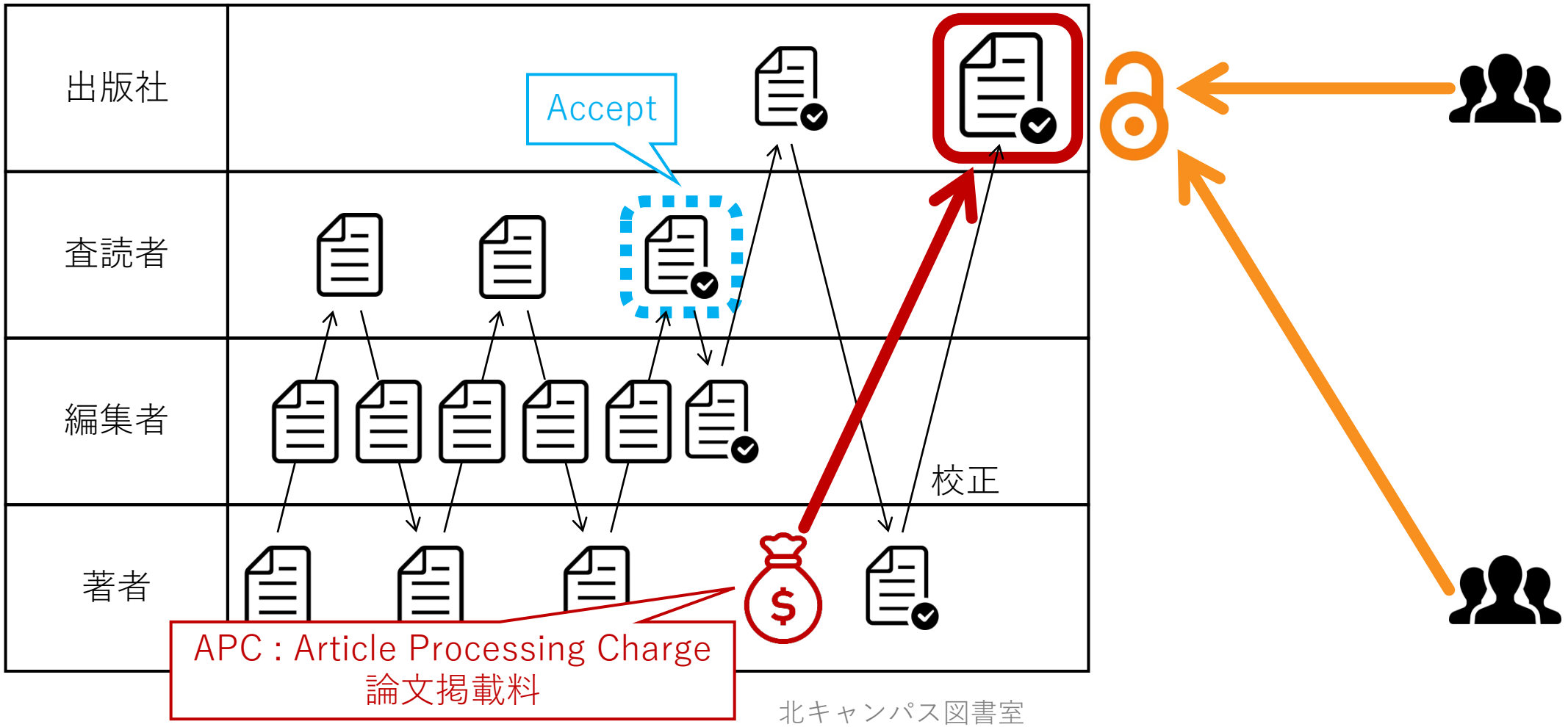
※内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局「日本の学術論文等のオープンアクセス政策について」（2024年4月25, 26日）https://www8.cao.go.jp/cstp/oa_houshin_setsumei.pdf

「ハゲタカ問題」とは？
オープンアクセス：セルフアーカイブ



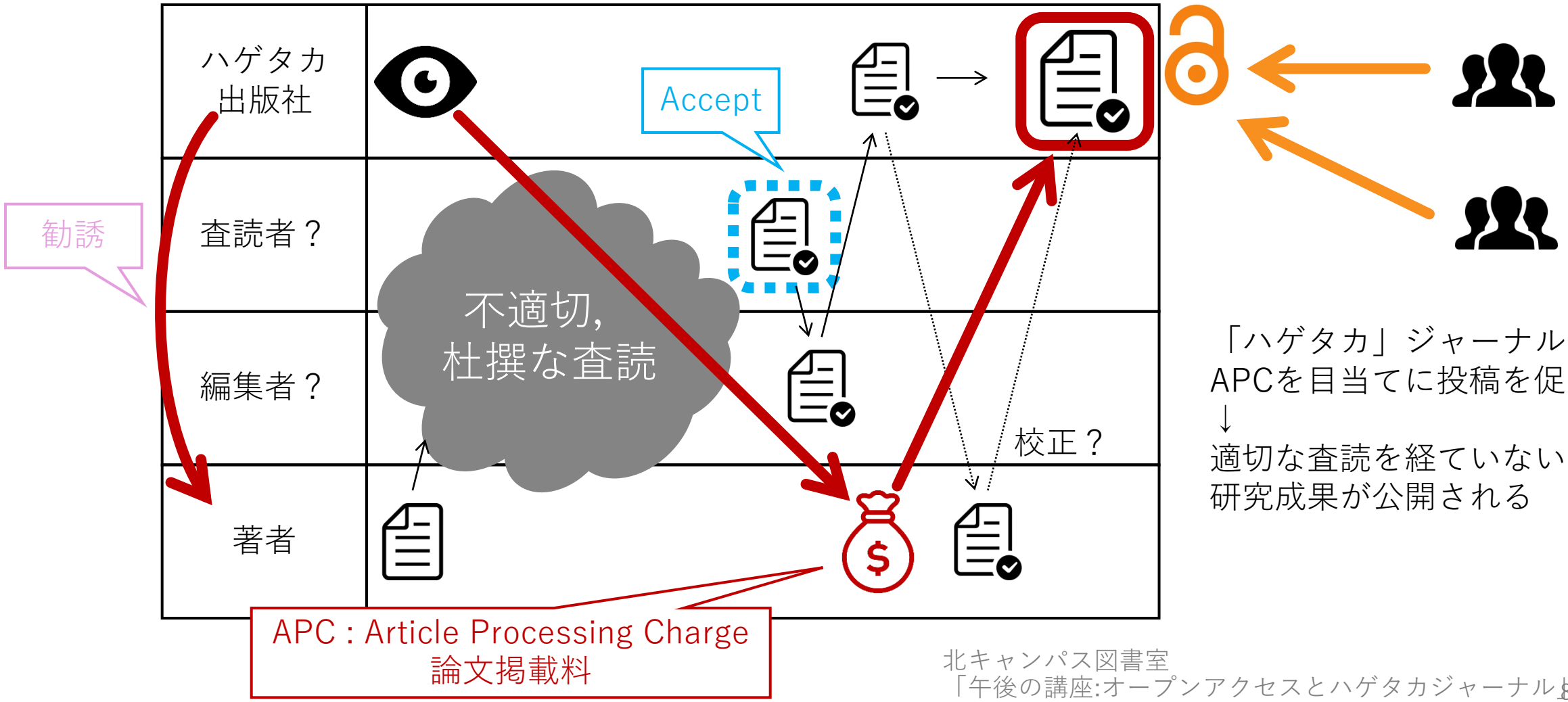
北キャンパス図書室
「午後の講座:オープンアクセスとハゲタカジャーナル」講座資料
http://hdl.handle.net/2115/71762

「ハゲタカ問題」とは？
オープンアクセス：Gold OA



北キャンパス図書室
「午後の講座:オープンアクセスとハゲタカジャーナル」講座資料
http://hdl.handle.net/2115/71762

「ハゲタカ問題」とは？
「ハゲタカ」ジャーナルはGold OAに便乗



「ハゲタカ」ジャーナルは
APCを目当てに投稿を促す
↓
適切な査読を経ていない
研究成果が公開される

北キャンパス図書室
「午後の講座:オープンアクセスとハゲタカジャーナル」講座資料
http://hdl.handle.net/2115/71762

「ハゲタカ問題」とは？
高額なAPCの支払い

- APC：著者が支払う論文掲載料
- APC平均額：約2,000ドル（2020年）　※
- 「ハゲタカ」ジャーナル上で論文は無料公開
  購読に伴う品質チェックは機能しない）
- 著者のAPC支払いで完結
  「ハゲタカ」ジャーナル側の目的は達成

※平田 義郎「大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の論文公表実態調査について」
SPARC Japan セミナー2022
https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2022/pdf/20230217_8.pdf

遭遇事例
「ハゲタカなのでは…？」

- 聞いたことがないジャーナルだが？
- 投稿予定のジャーナルの査読期間が短すぎ、ほとんどアクセプトされているようだ？
- 博士論文許可申請書の論文が怪しいのでは？
- 相談者：研究者自身、博士課程学生の指導教員、教務、事務
- 相談のタイミング
  投稿後（アクセプト後、APC支払い前、博士論文の申請時）は問題に発展する可能性

遭遇事例
「引っかかってしまった」

- 事例1：博士課程学生が投稿、支払い前に確認したいが…
- 事例2：博士課程学生に投稿を勧めたIF付きジャーナル、実は…
- 事例3：投稿ジャーナルは出版地不明、罰金の要求、脅しが…
- 事例4：（適正な）ジャーナルへの支払い手続き中に、偽の出版社からの請求があった

当初は怪しいことに気づかなかった
気づいていない状態で他にもあるかもしれない

遭遇事例
「勝手に…」

- 自身の論文が著者名とタイトルを変えて転載されていた※1
- 生成AI捏造論文が自身の名前で掲載されていた※2
- ハイジャックジャーナル、クローンジャーナル※3

気づかない間に関わりをもたされていた
気づいていない状態で他にもあるかもしれない

新聞記事はデータベースより閲覧可能（北海道大学内限定） https://www.lib.hokudai.ac.jp/databases/#shinbun

※1「論文盗用：米ハゲタカ誌、全文盗用　著者・タイトルを変更　日本の研究者も被害」毎日新聞 2021.12.27 東京朝刊
※2「生成ＡＩで日本人の研究者かたり論文捏造か、収入目的の海外サイト「ハゲタカジャーナル」に掲載」読売新聞, 2024.11.20
https://www.yomiuri.co.jp/national/20241120-OYT1T50136/
※3「【注意喚起】札幌医学雑誌を名乗る偽サイトについて」
https://infonavi.sapmed.ac.jp/jpn/news/news-library/5093/

遭遇事例
「疑問を持ちながらも関わってしまった」

- 研究業績を増やすために投稿 ※1
- 研究業績を増やすために学会に参加 ※2
- 博士の学位審査のために必要だった ※3
- 学生が就職のために必要としていた ※4
- 共著者の意向を断れなかった ※5

当時はわからなかった、やむをえなかった、利用した

※1「科学の森：ハゲタカ誌対策、大学が苦慮　研究者、業績獲得へ安易に利用」毎日新聞 2021.7.8 東京朝刊
※2「ハゲタカ」国際学会：異分野30人、パリで「学会」同室で発表、参加講師「便利」」
毎日新聞 2019.1.19 大阪朝刊
※3「粗悪学術誌：投稿、教授が圧力　准教授証言　国立大、業績稼ぎ」毎日新聞 2018.9.15 大阪朝刊
※4「粗悪学術誌：九大が対策　国内初　投稿巡り注意喚起」2018.9.3　西部朝刊
※5 翻訳：井出和希, 林和弘, ホーク・フィリップ, 清水智樹 「<翻訳>粗悪な学術誌・学術集会を拡げないために 」https://doi.org/10.18910/91457

遭遇事例
「わからない…」

- 聞いたことがないジャーナルだがハゲタカでは？
- 研究者への勧誘メール、投稿料
- 各種リストに記載がない、判断基準に当てはまらない
- 複数の大学で相談事例あり
- 複数の大学でプレスリリースへの掲載あり
- 「ハゲタカ」と判断した研究者もいる

研究者により判断が分かれ、今もわからない

遭遇事例
「ハゲタカ」掲載論文の調査

- 博士論文での「ハゲタカ」掲載論文使用調査（2017年医学分野）106本中8本（7.5%） ※1
- 国内の大学での調査事例：毎日新聞の調査（2018） ※2
  →これを契機に各大学で注意喚起

※1 佐藤翔「日本の医学博士論文に潜む7.5%のハゲタカOA」情報の科学と技術, 68巻10号, p.511-512（2018）
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/68/10/68_511/_article/-char/ja/

※2 [粗悪学術誌：日本から５０００本　東大や阪大　論文投稿、業績水増しか」
毎日新聞 2018.9.3, 東京朝刊

何が問題なのか？
研究者個人（投稿者）にとっての問題

- 論文掲載料が返却されない、取消料が発生する
- 投稿の取り下げ、論文掲載の取り下げに応じてもらえない
- 二重投稿の恐れがあるため他のジャーナルに投稿できない
- 「ハゲタカ」に関係した研究を業績にできるか？

何が問題なのか？
研究者個人を越えた問題

- 論文の引用→研究そのものへ影響 ※
- レビュー、プレスリリースでの引用→一般への影響
- 学位授与、業績評価、人事評価
- 論文の利用に際しても注意が必要
- 価値の保証のない学術成果にかける時間と金銭

※佐藤翔「ハゲタカOA 論文の4 割は一度は引用されている」情報の科学と技術 69巻 4号, 171-172（2019）https://doi.org/10.18919/jkg.69.4_171

何が問題なのか？
「ハゲタカ」掲載論文の評価

- 論文の質と掲載先の質は比例するのか？別なのか？
- 投稿を取り下げ、他ジャーナルの査読を受けた例※
- 個々の論文そのもの、個別の状況を見る必要

※「粗悪学術誌：論文削除応じず　都立病院の投稿、手数料まで請求」毎日新聞, 2018.10.15, 東京朝刊

対策：対応？予防？
関わってしまった後の対応

- 掲載料と論文を取り戻し、関わりを絶てるか？
- 投稿撤回、論文掲載取り下げ

⇒返信がない、応じてもらえない、取消料が請求される、論文は掲載され続ける

- 解決事例（著作権譲渡契約がポイントに）※
- 北大での相談先：所属部局の事務
- 法律相談…？国内での裁判事例はない

悪質なジャーナルには関わらないことが大事

※「Predator―Predatory Publishingの1例―」日本消化器外科学会雑誌,50巻11号(2017)
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjgs/50/11/50_937/_html/-char/ja

対策：対応？予防？
予防の情報提供

- 各大学：情報提供、注意喚起
  注意が必要な「怪しいジャーナル」（北海道大学）
  https://www.lib.hokudai.ac.jp/support/predatory_journals/

- 日本：懸念、提言
  文部科学省「学術情報流通に係る懸念すべき事例への対応状況アンケートについて」(2021.10.26)
  https://www.mext.go.jp/content/20211028-mxt_jyohoka01-000018641_07.pdf

- 日本学術会議 回答「論文の査読に関する審議について」(2023.9.25)
  https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-k353.pdf

対策：対応？予防？
予防について：リスト方式

- ウォッチリスト
  疑いがあるとされるジャーナル
  Beall’s List
  Predatory Reports (Cabell’s)
- セーフリスト
  信頼性が高いとされるデータベース
  DOAJ（Directory of Open Access Journals）
  COPE（Committee on Publication Ethics）
  OASPA（Open Access Scholarly Publisher's Association）
  Web of Science：Master Journal List

対策：対応？予防？
予防について：チェックリスト



論文投稿先検討のための
チェックリスト 2023年6月版

翻訳：井出和希[a*]，中山健夫[b]

a 大阪大学 感染症総合教育研究拠点（CIDER）科学情報・公共政策部門／社会技術共創研究センター（ELSI センター）実践研究部門／文部科学省 科学技術・学術政策研究所（NISTEP）
b 京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野／医学部附属病院総合診療部

* ide-k@cider.osaka-u.ac.jp, ide.kazuki.2r@kyoto-u.jp

Think Check Submit

Journals

ジャーナル（学術誌）

このチェックリストは、出版社があなたの研究に適しているかどうかを見極める際に、
必要なことを明らかにするのに役立つツールです
検討しているジャーナルがあなたの研究に適したジャーナルであるかどうか、どのように確認できるでしょうか？

Think

考える

信頼できるジャーナルに投稿していますか？

あなたの研究に適したジャーナルですか？

- 世界中でより多くの研究が出版されています
- 毎週新しい出版社が設立されています
- 多くの研究者が粗悪な（悪徳である場合を含む）出版（predatory publishing）に懸念を抱いています
- 出版先を選ぶ際に、最新のガイダンスを見つけることは難しいでしょう

Think,check,submit
https://thinkchecksubmit.org/
（多言語に対応）

PDF版 https://doi.org/10.18910/93181

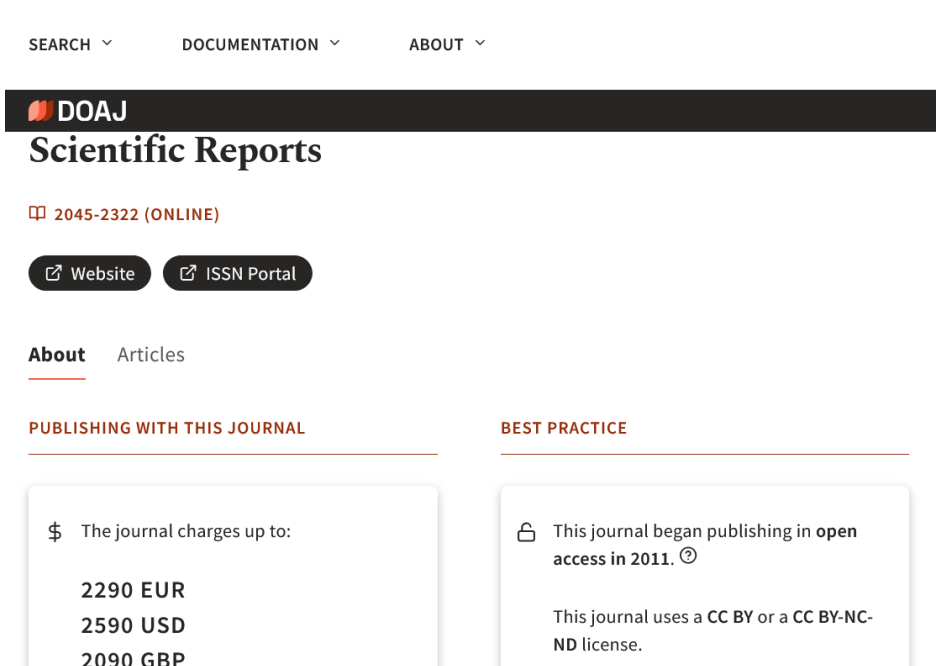
対策：対応？予防？
予防について：チェックリストの観点

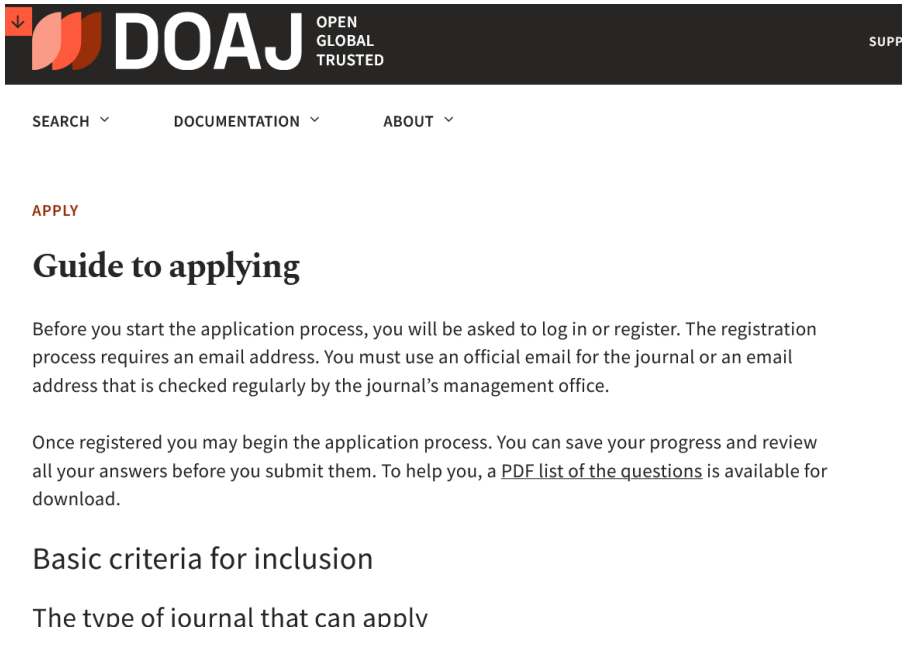


- あなたやあなたの同僚は、そのジャーナルを知っていますか？
- 出版社を簡単に特定し、連絡を取ることができますか？
- そのジャーナルはどのような形式の査読を採用しているか明確ですか？
- 論文は専門のサービスで索引づけやアーカイブ化が為されていますか？
- どのような費用が請求されるのか明確ですか？
- 出版社のウェブサイトに著者のためのガイドラインはありますか？
- 出版社は、業界で認知された取り組み（initiative）のメンバーですか？

対策：対応？予防？
予防について：セーフリストの観点

- DOAJ：オープンアクセスジャーナルのリスト
  https://doaj.org/
- ジャーナルの特徴が一覧できる
- 採録に厳しい審査基準





対策：対応？予防？
予防について：リストのゆらぎ

- ウォッチリストは判定基準が恣意的になる恐れ
- セーフリストから消えたジャーナル
- ウォッチリスト、セーフリスト両方に掲載
- 創刊後間もないジャーナルの情報はない
- プレダトリージャーナル判定リストの実態調査 ※
  「ハゲタカ」(predatory)の判定理由、評価・判定の難しさ
  商用の判定データベースの杜撰さ、品質確認の難しさ

※井出和希, 林和弘, 小柴等「プレダトリージャーナル判定リストの実態調査」
NISTEP RESEARCH MATERIAL. 2023: No.326
https://doi.org/10.15108/rm326

対策：対応？予防？
改めて「ハゲタカ」とは？学術誌の質は動的

- 査読のある「ハゲタカ」誌？
- 「ハゲタカ」の評価が変わったジャーナル
- 質の低いジャーナル/学会/出版社を育てる
- 人により「ハゲタカ」で何を指すか異なる
- 「ハゲタカ」（Predatory）の言葉を使用する問題

佐藤翔「オープンサイエンス時代の論文出版の動向 Vol.2：「ハゲタカ雑誌」の定義とグラデーション」｜ターンイットイン ブログ 2022年6月1日
https://www.turnitin.jp/blog/the-definition-and-spectrum-of-predatory-journals

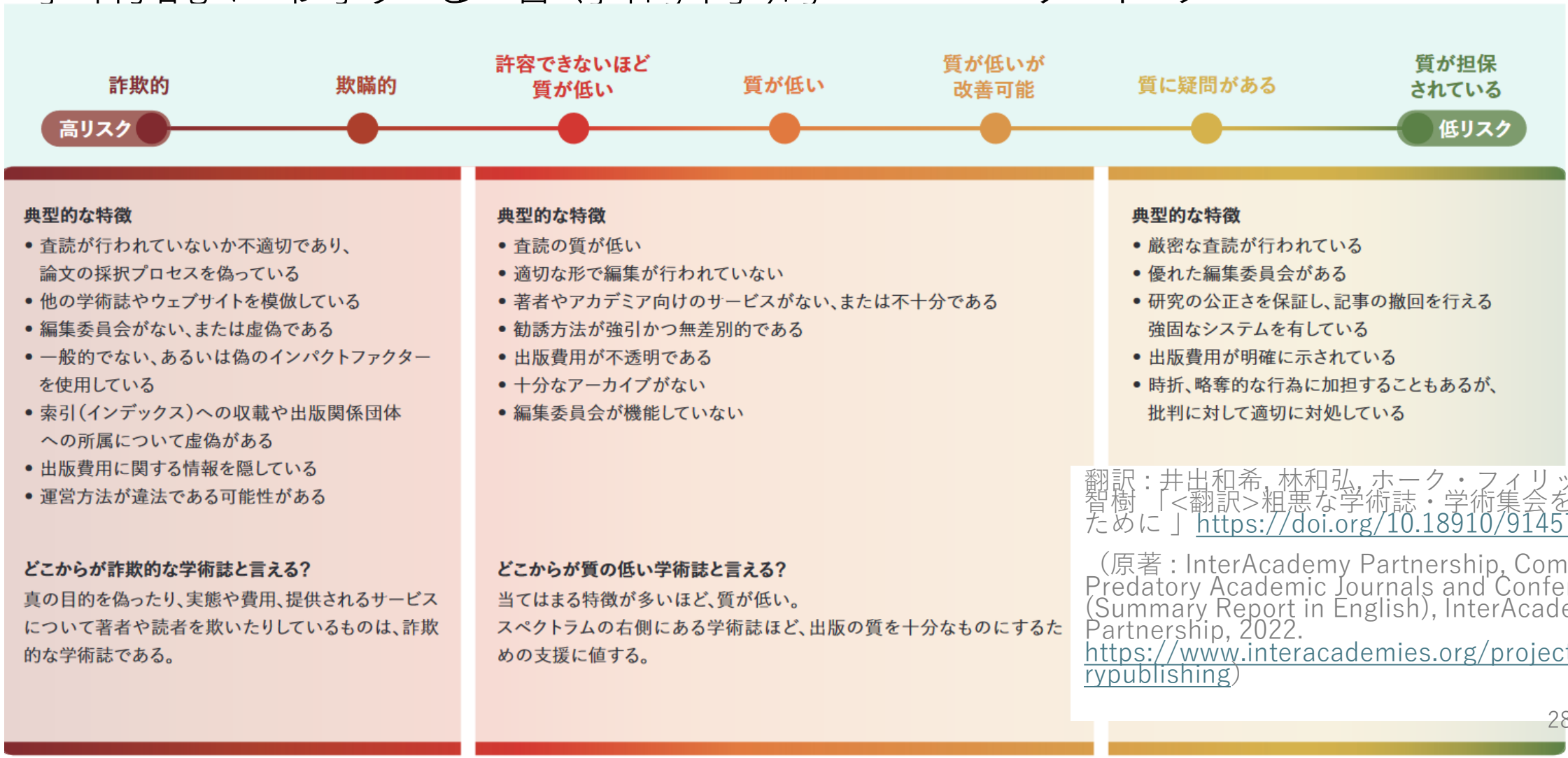
対策：対応？予防？
「ハゲタカ」の定義：Natureでは

（定義は機械翻訳による）

- 学問を犠牲にして金銭的な私利を優先する
- 特徴
  虚偽または誤解を招く情報
  編集および出版のベストプラクティスからの逸脱
  透明性の欠如
  攻撃的で無差別な勧誘
- 「Predatory」(ハゲタカ)の言葉は限界がある

（定義は機械翻訳による）
Agnes Grudniewicz et al. Predatory journals: no definition, no defence, Nature 576, 210-212 (2019) https://doi.org/10.1038/d41586-019-03759-y

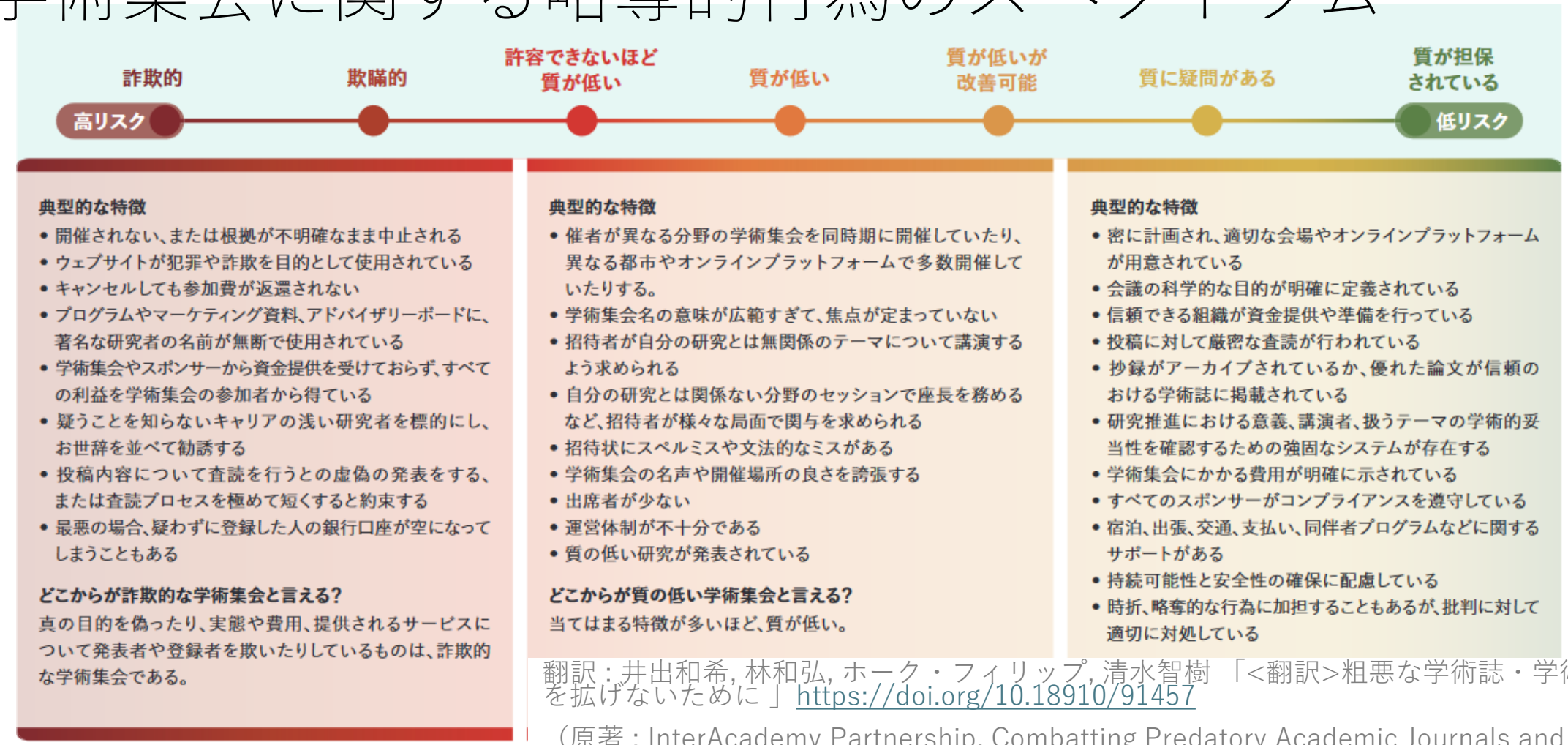
対策：対応？予防？
ハゲタカの定義：IAPでは
学術誌に関する略奪的行為のスペクトラム



翻訳：井出和希，林和弘，ホーク・フィリップ，清水智樹「<翻訳>粗悪な学術誌・学術集会を拡げないために」https://doi.org/10.18910/91457

（原著：InterAcademy Partnership, Combatting Predatory Academic Journals and Conferences (Summary Report in English), InterAcademy Partnership, 2022. https://www.interacademies.org/project/predatorypublishing）

対策：対応？予防？
ハゲタカの定義：IAPでは
学術集会に関する略奪的行為のスペクトラム



翻訳：井出和希, 林和弘, ホーク・フィリップ, 清水智樹 「<翻訳>粗悪な学術誌・学術集会を拡げないために」https://doi.org/10.18910/91457

（原著：InterAcademy Partnership, Combatting Predatory Academic Journals and Conferences (Summary Report in English), InterAcademy Partnership, 2022. https://www.interacademies.org/project/predatorypublishing）

対策：対応？予防？
ハゲタカの定義：IAPの学術誌スペクトラム

- 良し悪し、〇×といった判断はできない
- リスクはスペクトラム（グラデーション）でとらえる

↓「粗悪な学術誌・学術集会を拡げないために（増補版）」
（https://doi.org/10.18910/91457）をもとにデザイン・作成された資料

井出和希, 中山健夫「その学術誌、大丈夫？」 https://doi.org/10.18910/94925

対策：対応？予防？
対策の考えかたを変える

- 100％有効な対策はない
- 勧誘メールを信じ込まず、主体的に判断
- リストは判定結果ではなく、判定基準を参考にする
- 個々のジャーナル/学会/出版社について、どんな問題点があるのか、判断の過程を言語化する
- 研究者、関係者とコミュニケーションをとる
  （特に博士課程学生）指導教員との相談で投稿先を選ぶ
- 「ハゲタカ」「Predatory」による問題の不可視化

井出和希「学術誌・データのオープン化、質、逃れられない曖昧さと実践的アプローチ」2024年11月08日（金）研究大学コンソーシアム（RUC）連続セミナー資料
https://doi.org/10.18910/98413

「ハゲタカ問題」の示すほんとうの問題
研究者をとりまく状況

- 多忙
- 任期つきのポスト
- 博士学位論文の要件
- 限られた時間での成果発表への過大なプレッシャー、切実さ
- Publish or Perish

「ハゲタカ問題」の示すほんとうの問題
学術成果発表・研究評価の問題

- 過度に商業化された学術雑誌
  高額な購読料、掲載料
- 査読への信頼のゆらぎ
  査読は機能しているか、必要か
- 数値での研究評価
  論文数、発表数、引用数
- 次々と指摘される問題
  ペーパーミル ※1、査読ミル ※2 など

※1 「ペーパーミルによる論文捏造の規模はどのくらい？」Natureダイジェスト, Vol.21 No.2
https://doi.org/10.1038/ndigest.2024.240222
（原著：https://doi.org/10.1038/d41586-021-00733-5）

※2 佐藤翔「新たなる脅威「査読工場（review mill）」 」 JPCOARウェブマガジン, 2024年9月24日
https://www.magazine.jpcoar.org/news/80ba13b1-ab85-4917-9040-00a47fabc330

「ハゲタカ問題」の示すほんとうの問題
根本の問題に対して

- 学術成果の発表・流通のあり方
  オープン査読、プレプリント、研究データの公開、
  ダイヤモンドオープンアクセス…
- 研究評価の枠組みの改革
  サンフランシスコ宣言（DORA）
  https://sfdora.org/read/read-the-declaration-japanese/
- 学術成果発表・研究評価の状況は動いている

最後に

- 学術論文等の即時オープンアクセス義務化公的助成・R7年度新規公募分より

  詳しくは
  https://www.lib.hokudai.ac.jp/support/immediate_open_access

- 北大のオープンアクセス支援

  ・HUSCAPでのセルフアーカイブ
  https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/staff/

  お問い合わせは HUSCAP[at]lib.hokudai.ac.jp

  ・オープンアクセス論文投稿支援
  https://www.lib.hokudai.ac.jp/support/apc/

